

皆様、おはようございます。

日に日に肌寒さを感じる気候となってまいりました。もうこたつを出しましたか、との挨拶が行きかう時期となりました。どうぞ皆様体調にはお気を付けください。

黙示録は8章に入りました。ついに巻物の最後の封印、七つ目の封印が解かれ、7人の天使がラッパを吹くごとに恐ろしい災いが世に下ります。それはまさに使徒2章にありますヨエルの預言の通りです。

使徒 2:16 そうではなく、これは預言者ヨエルが預言していたことに外ならないのである。すなわち、

2:17 『神がこう仰せになる。終りの時には、／わたしの霊をすべての人に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘は預言をし、／若者たちは幻を見、／老人たちは夢を見るであろう。

2:18 その時には、わたしの男女の僕たちにも／わたしの霊を注ごう。そして彼らも預言をするであろう。

2:19 また、上では、天に奇跡を見せ、／下では、地にしるしを、／すなわち、血と火と立ちこめる煙とを、／見せるであろう。

2:20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、／日はやみに／月は血に変るであろう。

2:21 そのとき、主の名を呼び求める者は、／みな救われるであろう』。

最後のこの言葉が大きな望みです。「そのとき、主の名を呼び求める者は、みな救われるであろう」

それでもなお、人々は心をかたくなにして出エジプト記にありますエジプトの王のように心をかたくなにして自らの身に滅びを招く。これは見るに堪えないことです。

8:1 小羊が第七の封印を解いた時、半時間ばかり天に静けさがあった。

8:2 それからわたしは、神のみまえに立っている七人の御使を見た。そして、七つのラッパが彼らに与えられた。

8:3 また、別の御使が出てきて、金の香炉を手を持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった。

8:4 香の煙は、御使の手から、聖徒たちの祈と共に神のみまえに立ちのぼった。

すべての聖徒は祈りを捧げていました。それがかぐわしい香と共に、天使の手を通して神の御前に立ち上ります。私たちの祈りは助けられ、きよめられ、また聖霊の取りなくをもいただいて、神様の御前に立ち上ります。時はいよいよ終わりの時を迎える直前。半時間ばかり天に静けさがありました。

これまで読んでまいりました黙示録の所々を思い起こします。

## 黙示録 5 章

5:6 わたしはまた、御座と四つの生き物との間、長老たちの間に、ほふられたとみえる小羊が立っているのを見た。それに七つの角と七つの目とがあった。これらの目は、全世界につかわされた、神の七つの霊である。

5:7 小羊は進み出て、御座にいますかたの右の手から、巻物を受けとった。

5:8 巻物を受けとった時、四つの生き物と二十四人の長老とは、おのおの、立琴と、香の満ちている金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒の祈りである。

5:9 彼らは新しい歌を歌って言った、「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない、

5:10 わたしたちの神のために、彼らを御国の民とし、祭司となさいました。彼らは地上を支配するに至るでしょう」。

5:11 さらに見ていると、御座と生き物と長老たちとのまわりに、多くの御使たちの声が上がるのを聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍もあって、

5:12 大声で叫んでいた、「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい」。

5:13 またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、「御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」。

5:14 四つの生き物はアメンと唱え、長老たちはひれ伏して礼拝した。

## 6 章

6:9 小羊が第五の封印を解いた時、神の言のゆえに、また、そのあかしを立てたために、殺された人々の靈魂が、祭壇の下にいるのを、わたしは見た。

6:10 彼らは大声で叫んで言った、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか。

6:11 すると、彼らのひとりびとりに白い衣が与えられ、それから、「彼らと同じく殺されようとする僕仲間や兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように」と言い渡された。

6:12 小羊が第六の封印を解いた時、わたしが見ていると、大地震が起って、太陽は毛織の荒布のように黒くなり、月は全面、血のようになり、

6:13 天の星は、いちじくのまだ青い実が大風に揺られて振り落とされるように、地に落ちた。

6:14 天は巻物が巻かれるように消えていき、すべての山と島とはその場所から移されてしまった。

6:15 地の王たち、高官、千卒長、富める者、勇者、奴隷、自由人らはみな、ほら穴や山の岩かげに、身をかくした。

6:16 そして、山と岩とにむかって言った、「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。

6:17 御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか」。

## 7章

7:1 この後、わたしは四人の御使が地の四すみに立っているのを見た。彼らは地の四方の風をひき止めて、地にも海にもすべての木にも、吹きつけないようにしていた。

7:2 また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、

7:3 「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」。

7:9 その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立ち、

7:10 大声で叫んで言った、「救は、御座にいますわれらの神と／小羊からきたる」。

7:11 御使たちはみな、御座と長老たちと四つの生き物とのまわりに立っていたが、御座の前にひれ伏し、神を拝して言った、

7:12 「アアメン、さんび、栄光、知恵、感謝、ほまれ、力、勢いが、世々限りなく、われらの神にあるように、アアメン」。

7:13 長老たちのひとりが、わたしにむかって言った、「この白い衣を身にまとっている人々は、だれか。また、どこからきたのか」。

7:14 わたしは彼に答えた、「わたしの主よ、それはあなたのご存じです」。すると、彼はわたしに言った、「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。

7:15 それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。

7:16 彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。

7:17 御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいにとって下さるであろう」。

## 8章

8:1 小羊が第七の封印を解いた時、半時間ばかり天に静けさがあった。

8:2 それからわたしは、神のみまえに立っている七人の御使を見た。そして、七つのラッパが彼らに与えられた。

8:3 また、別の御使が出てきて、金の香炉を手を持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった。

8:4 香の煙は、御使の手から、聖徒たちの祈と共に神のみまえに立ちのぼった。

8:5 御使はその香炉をとり、これに祭壇の火を満たして、地に投げつけた。すると、多くの雷鳴と、もろもろの声と、いなずまと、地震とが起った。

8:13 また、わたしが見ていると、一羽のわしが中空を飛び、大きな声でこう言うのを聞いた、「ああ、わざわいだ、わざわいだ、地に住む人々は、わざわいだ。なお三人の御使がラッパを吹き鳴らそうとしている」。

時は困難の時、患難の時、迫害の時、曲がった邪悪な時代です。どれだけこれまで聖徒たちの血が流されたのでしょうか。そして、どれだけ時間、主は裁きを遅らせてこられたのでしょうか。

ビリピ 2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したこともむだではなかったと誇ることができる。

2:17 そして、たとい、あなたがたの信仰の供え物をささげる祭壇に、わたしの血をそそぐことがあっても、わたしは喜ぼう。あなたがた一同と共に喜ぼう。

2:18 同じように、あなたがたも喜びなさい。わたしと共に喜びなさい。

どれだけ呻きが続いたのでしょうか。

ローマ 8:14 すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。

8:15 あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。

8:16 御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

8:17 もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にする

ために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。

8:18 わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。

8:19 被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。

8:20 なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、

8:21 かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。

8:22 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、わたしたちは知っている。

8:23 それだけではなく、御霊の最初の実を持っているわたしたち自身も、心の内でうめきながら、子たる身分を授けられること、すなわち、からだのあがなわれることを待ち望んでいる。

8:24 わたしたちは、この望みによって救われているのである。しかし、目に見える望みは望みではない。なぜなら、現に見ている事を、どうして、なお望む人があろうか。

8:25 もし、わたしたちが見ないことを望むなら、わたしたちは忍耐して、それを待ち望むのである。

8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。

8:27 そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

ついに聖徒たちの患難と祈りは器に満ち、終わりの時が来ようとしています。

8:5 御使はその香炉をとり、これに祭壇の火を満たして、地に投げつけた。すると、多くの雷鳴と、もろもろの声と、いなずまと、地震とが起った。

8:6 そこで、七つのラッパを持っている七人の御使が、それを吹く用意をした。

8:7 第一の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、血のまじった雹と火とがあらわれて、地上に降ってきた。そして、地の三分の一が焼け、木の三分の一が焼け、また、すべての青草も焼けてしまった。

8:8 第二の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えさかっている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして、海の三分の一は血となり、

8:9 海の中の造られた生き物の三分の一は死に、舟の三分の一がこわされてしまった。

8:10 第三の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が、空から落ちてきた。そしてそれは、川の三分の一とその水源との上に落ちた。

8:11 この星の名は「苦よもぎ」と言い、水の三分の一が「苦よもぎ」のように苦くなった。水が苦くなったので、そのために多くの人が死んだ。

8:12 第四の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれて、これらのものの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は明るなくなり、夜も同じようになった。

もうここには風を留めて大地にも、海にも、木々にも、損なわれないようにと押しとどめるものはありません。

ちょうど主イエス様がおっしゃったとおりに、終わりの時と滅びがやって来ます。

昨晚にも北朝鮮がミサイルの発射をしました。ロシアも核兵器を使うと公言して止みません。バイデン大統領は「ハルマゲドン」という言葉を口にします。

「苦よもぎ」。これはチェルノブイリの原子力発電所の爆発を言うといった人もありますが、あらゆる苦しみ、苦悩、屈辱をもさします。こうして血が焼け、海が汚染され、地の、海の生き物が死にます。この苦しみ、苦悩、屈辱にさらされ、人は困難を極めますが、その中からどれだけの人が、主の御名を呼び求めるようになるのでしょうか。

マタイ 24:3 またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、「どうぞお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」。

24:4 そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。

24:5 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。

24:6 また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけません。それは起らねばならないが、まだ終りではない。

24:7 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう。

24:8 しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。

24:9 そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。

24:10 そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。

24:11 また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。

24:12 また不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えるであろう。

24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

24:14 そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。

24:15 預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、

24:16 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。

24:17 屋上にいる者は、家からものを取り出そうとして下におりな。

24:18 畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。

24:19 その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。

24:20 あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。

24:21 その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。

24:22 もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう。

24:23 そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。

24:24 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。

24:25 見よ、あなたがたに前もって言うておく。

24:26 だから、人々が『見よ、彼は荒野にいる』と言っても、出て行くな。また『見よ、へやの中にいる』と言っても、信じるな。

24:27 ちょうど、いなずまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。

24:28 死体のあるところには、はげたかが集まるものである。

24:29 しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。

24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。

24:31 また、彼は大いなるラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

24:32 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。

24:33 そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

24:34 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。

24:35 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。

24:36 その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

8:13 また、わたしが見ていると、一羽のわしが中空を飛び、大きな声でこう言うのを聞いた、「ああ、わざわいだ、わざわいだ、地に住む人々は、わざわいだ。なお三人の御使がラッパを吹き鳴らそうとしている」。

鷲が登場します。これは、ハゲワシやコンドルをも意味するようです。そして、ハゲワシ・ハゲタカと言えお分かりのように、この言葉にはこのような意味も持ちます。「弱い者を食べ物にする強欲で残忍な人」。

そういう強奪して止まないハゲワシ、「死体のあるところには、はげたかが集まるものである」でさえ、「災いだ」と連呼して叫ぶほどの災いがやって来るのです。

コロサイ 1:9 そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、

1:10 主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。

1:11 更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、

1:12 光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。

1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

2:10 あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。

2:11 愛する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたは、この世の旅人であり寄留者であるから、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。

2:12 異邦人の中であって、りっぱな行いをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを



悪人呼ばわりしていても、あなたがたのりっぱなわざを見て、かえって、おとずれの日に神をあがめるようになろう。

2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。

2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

私たちは、「2:19 また、上では、天に奇跡を見せ、／下では、地にしるしを、／すなわち、血と火と立ちこめる煙とを、／見せるであろう。

2:20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、／日はやみに／月は血に変るであろう。

2:21 そのとき、主の名を呼び求める者は、／みな救われるであろう。』」とのこの主の憐れみにすがり、この半時間ばかりの静けさの時、熱く祈り続けたいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。あなたはすべての聖徒の祈りをかぐわしい香の香りにのせて、御使いの手を通して立ち上らせ、捧げものとして立ち上らせて受け止めて下さいますことをありがとうございます。天変地異のわき起こる終わりの時は預言の通り、確かにやってきますが、「主の名を呼び求める者は皆、救われる。」とのこの預言の言葉もまた成就させてくださることを信じます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・

キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの  
家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈り  
ます。アーメン